

令和2年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立金沢西高等学校 (1/2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動などを取り入れた授業を実施する。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 ※3年連続で80%以上の場合、目標達成とする。	生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価84% → 評価【A】 生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価78% → 評価【C】	今年度は休校期間にオンライン授業を行うなど、ICTを活用した学習に学校全体で取り組むことができた。今後も、GIGAスクール構想の推進により、さらに充実を図りたい。 学力向上のために学習意欲の喚起や予習復習を要する授業などに取り組んでいきたい。この項目は生徒の授業に対する満足度を示すもので評価B以上を目指す。評価Cなので、結果を分析し教科それぞれにおいて具体的な方策を検討する。
	② 「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・対話的に学び活動する態度を養う。	生徒によるアンケートで「主体的・探究的・対話的に活動に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒アンケートによる評価 1年 96% → 評価【A】 2年 87% → 評価【C】 → 全体92% 総合評価【B】	今年度は、初めて学年別に調査を行った。1年生が大変高い評価である一方で、2年生の評価には課題があることがわかった。1年から2年へ、さらに学びを深めていくために、2年生について、改善のための具体的な方策を検討する。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現にむけた学習時間の確保を促す。	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	家庭学習時間調査 → 全体 総合評価【C】29% 1年【B】34% 2年【D】5% 3年【A】49% ※3年の調査は9月で終了	前年度に比べ1年生、3年生は改善することができたが、2年生の状況は厳しい状況が続いている。中だるみと言われる2年生の家庭学習時間を確保することが、本校の大きな課題である。2年生について結果を分析し教科それぞれにおいて具体的な方策を検討する。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し方策を検討することで、学力向上に結び付ける	1、2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の割合が A 35%以上 B 30%以上 C 25%以上 D 25%未満 ※1・2年別に判断する 3年10月校外記述模試偏差値50以上が A 30%以上 B 20%以上 C 15%以上 D 15%未満 3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上が A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	1月記述：偏差値52以上の割合 1年 38% → 総合評価【A】 2年 34% → 総合評価【B】 3年10月記述： 偏差値50以上の割合 22% → 評価【B】 3年11月の共通テスト模試 総合偏差値52以上の割合 12% → 評価【C】	今年度は休校期間があり、学力の低下が危惧されたが、昨年度よりも高い評価を得ることができた。しかし、共通テストを見据えた思考力、判断力、表現力を問う出題に対し、十分に対応できていない面もあるので、模試の結果を授業、定期試験に反映させていく必要がある。 模試ごとに各教科で分析し対策をとっているが、受験生が絞り込まれてくる3年において成績を維持、向上させることが年々難しくなっている。補習、個別添削をさらに工夫していくことはもちろんだが、1年の初期指導、進路行事や探究活動を通しての進路意識の涵養など、低学年における指導が重要性を増している。3年11月の共通テスト模試は評価Cなので、結果を分析し教科それぞれにおいて具体的な方策を検討する。
	⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	① 難関国立大学、金沢大学に5人以上合格 ② 北信越地区の国立大学に20人以上合格 ③ 北信越地区の公立大学に30人以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	① 7人(金沢7) ② 32人(金沢7、富山19、新潟1、上越教育5) ③ 40人(石川県立8、石川県立看護5など) → 総合評価【A】	今年度は休校期間があり、3年生は非常に不安な一年だったが、最後まで志望を下げずに頑張る生徒が多く見られた。生徒に寄り添いながらそれぞれの状況に応じた支援を行い、納得度の高い進路決定をさせていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	希望する進路実現のため、1、2年生の家庭学習時間を確保することが本校の大きな課題である。特に、2年生の状態が厳しいので具体的な対策を検討する必要がある。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	障害となっているのがスマートフォンの利用の仕方である。生徒自身が考えて上手に活用できるように保護者と連携し、生徒の心に響く指導を根気強く継続していく。			
2 組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 朝の挨拶運動において生徒会と協力して活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を培う。	生徒によるアンケートから、いろんな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価94% → 評価【A】	生徒による自己評価のため、評価が高く出ているように感じられる。この結果に甘えず、挨拶を積極的に自ら発する生徒を増やしていくための取組を実施していきたい。
	② 登校指導等において、自転車乗車マナーの向上を目指し、交通ルール遵守の精神を忘れず、安全に配慮できる判断力と注意力を身につけさせる。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で A 20件未満 B 20件以上 C 30件以上 D 40件以上	1月末現在の違反指導件数7件 → 評価【A】	今年度はコロナ禍で休校期間もあったため、昨年度12月末の14件をさらに減少させることができた。しかし、自転車に関わる交通事故の件数が16件あり、特に1年生の事故が多かった。命に関わることなので、十分な指導をしていきたい。
	③ いじめは決して許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。未然防止に取組とともに、居心地の良い学校づくりに努めていく。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケート集計で、肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による後期学校評価アンケートの肯定的評価91% → 評価【A】	昨年度より、互いを尊重できる居心地の良い学校であるかを把握する質問に変更した。昨年度は86%で肯定的評価は上昇したが、休校期間があり比較が難しい。さらに評価が向上するように生徒を支援していきたい。

	④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	歯科の受診率が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	1/31時点の集計 53% → 評価【A】	前年度の受診率は20.4%で、今年は倍以上の割合の生徒が受診できている。これは、根気強く声掛けしたり、保健と担任が指導を行ったり、あるいは歯科医の先生にも指導に入ってもらったりしたことが成果につながった。	
学校関係者評価委員会の評価		コロナ禍での1年だったが、学校評価アンケートにおいて評価の下がり方が少ない。金沢西高校が生徒にとって、学校が居心地の良い場所になっているのは、すごいことだと思う。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		来年度もコロナ禍のために教育活動が制限を受ける可能性が大きい、今年度の経験を活かして教育活動の更なる質向上に努めたい。				
3	文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部ともに活動内容の充実と挨拶などの規範意識の醸成を図りながら部員数の増加・定着に努める。	充実感や達成感が感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	生徒による後期学校評価アンケートの肯定的評価82% → 評価【A】	昨年度までは、部活動加入率を調査の指標としていたが、今年度の1年生から部活動加入を原則としたので、指標を充実感や達成感が感じられる部活動の肯定的評価に変更した。部活動の活動内容を充実させることで、生徒の人間力を高めていきたい。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	(運動部) 県高校総体は、コロナ感染拡大防止のため中止になったので順位なし。 (文化部) 年間の獲得賞状枚数は10枚 → 評価【C】	今年度は、コロナ禍のために運動部について県高校総体が中止になった。また、文化部についても大会が中止となったものがあり、大変残念だった。
学校関係者評価委員会の評価		感染対策を講じ、部活動の充実感や達成感が感じられるような指導を更に目指してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		本校では部活動を通して人間力の向上を目指している、まずは、多くの生徒が部活動に入部するよう支援し、活動を充実させていきたい。				
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	保護者による後期学校評価アンケートで肯定的評価88% → 評価【A】	今年度も昨年度と同様、積極的に先生方への声かけを行い情報提供に努めた結果、高評価を得ることができた。コロナ禍においても、生徒が様々な教育活動に頑張っている様子を伝えていきたい。
			PTA総会、教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数 A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	保護者の来校のべ人数 536名 → 評価【C】	保護者の来校のべ人数 536名 (内訳) PTA総会(中止) 1年進路説明会 212名 2年進学講演会 189名 教育ウィーク 135名	
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたりの冊数(年度末まで) A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	4/1~3/31集計 3.7冊 → 評価【B】	年度初めに休校期間があったにもかかわらず、利用促進のためのキャンペーン「読書いいね!」や「GOTO図書館」の取組、小論文での活用などにより、昨年度の1.5冊を大きく上回る成果を取ることができた。
③	節電・節水、ゴミの分別や紙の3R's活動を通して、環境保全活動への意識関心を高める。	『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回収率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	回収率 89% → 評価【A】	昨年度の回収率は、64.2%だった。今年度は積極的な声掛けを行い、さらに回収率を高めることができた。年間を通して、環境保全活動を意識させていきたい。		
学校関係者評価委員会の評価		コロナ禍において、学校からの情報発信は大変重要である。ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努めてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		授業や学校行事などの発信だけでなく、進路指導や感染対策など、保護者の皆さんが必要としている情報を適切に提供できるよう取り組みたい。				
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業務改善に向けた学校マネジメントを推進するために具体的な取組を行う。	①	ワークライフバランスを常に意識し校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	具体的な取組を実施し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	職員への後期アンケート結果 「ワークライフバランスを意識し、業務の効率化に取り組み、時間外勤務が減少している」の肯定的評価は54% → 評価【C】	昨年度は64.5%で、肯定的評価を下げる結果となった。今年度、コロナによる感染拡大、それに関わる業務があるので、仕方がない部分もある。ただ、全体的な時間外勤務の平均時間は、昨年から見ると減少している。また、月80時間越えの人数も大幅に減少している。4月から1月までの延べ人数は昨年65人だったが、今年度は15人と大きく減少した。もちろん2か月間の休校のこともあるが、月80時間越えに対する教職員の意識は少しずつ向上しているように感じられる。教育の質を落とさずに勤務時間を縮減することは大変難しいことだが感染予防対策を着実に働き方改革を推進していきたい。
			学校関係者評価委員会の評価		教職員の心身の健康を守るために、今後も積極的な業務改善に取り組んでほしい。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		今年度は、感染予防対策のための業務が新たに加わったために教職員の多忙化を招くことになった。今後もウイズコロナでの教育活動が続くことを踏まえ、校務分掌の体制を見直して、効果的・効率的な業務を行えるように改善に努める。				